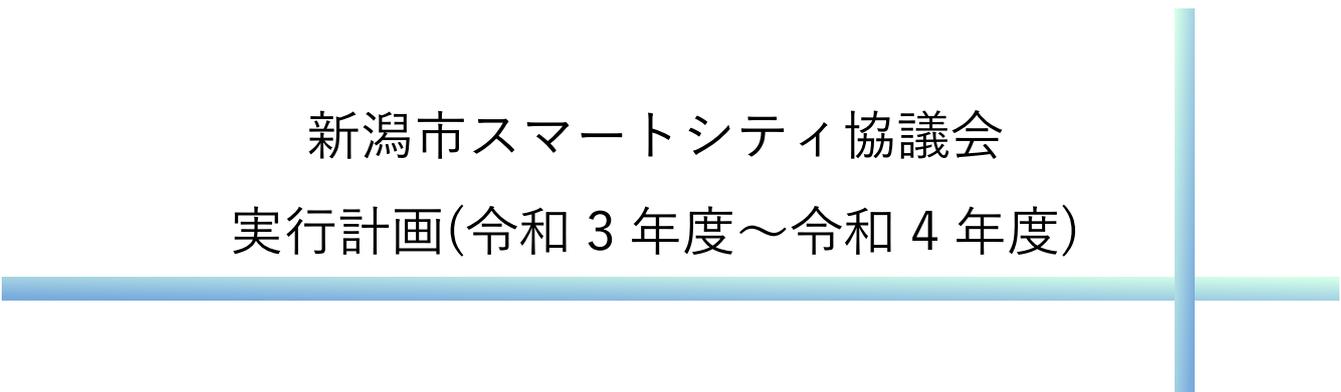


新潟市スマートシティ協議会
実行計画(令和3年度～令和4年度)



令和3年3月
新潟市スマートシティ協議会

目次

1) 基本事項	1
2) 対象区域	1
3) 区域の目標	3
4) 区域の課題	6
5) KPI の設定	11
6) 先進的技術の導入に向けた取組内容	12
7) スマートシティ実装に向けたロードマップ	30
8) 構成員の役割分担	31
9) 持続可能な取組とするための方針	34
10) データ利活用の方針	36
11) 横展開に向けた方針	38

1) 基本事項

事業の名称	スマート・プランニングをエンジンとしたクリエイティブシティの実現
事業主体の名称	新潟市スマートシティ協議会
事業主体の構成員	<p>地公体代表：新潟市</p> <p>民間事業者等代表：株式会社NTTドコモ新潟支店</p> <p>有識者：新潟大学工学部教授 佐々木 重信、事業創造大学院大学</p> <p>その他構成員：(株)BSN アイネット、木山産業(株)、Gugenka®(株)シーエスレポーターズ、日本ユニシス(株)、(株)ジェイアール東日本企画新潟支店、フラー(株)、(一社)新潟県都市整備協会、(株)福山コンサルタント東京支社、新潟古町まちづくり(株)、東京海上日動火災保険(株)、ソフトバンク(株)、OpenStreet(株)、エヌシーイー(株)、あいおいニッセイ同和損害保険(株)新潟支店、富士通(株)新潟支社、(株)ナカノアイシステム、東日本電信電話(株)新潟支店、太陽交通(株)、太陽交通新潟(有)、新潟商工会議所、(株)第四銀行営業本部、東日本旅客鉄道(株)新潟支社、グリーン産業(株)、佐渡汽船(株)、新潟駐車協会、(株)国際総合計画、新潟市ハイヤータクシー協会</p> <p style="text-align: right;">※順不同</p> <p>オブザーバー：新潟国道事務所、信濃川下流河川事務所</p>
実行計画の対象期間	2021年度～2022年度 ※スマートシティの取組みは2020年度から開始 ※2022年度までの取組み結果を踏まえ、2023年度以降も継続予定

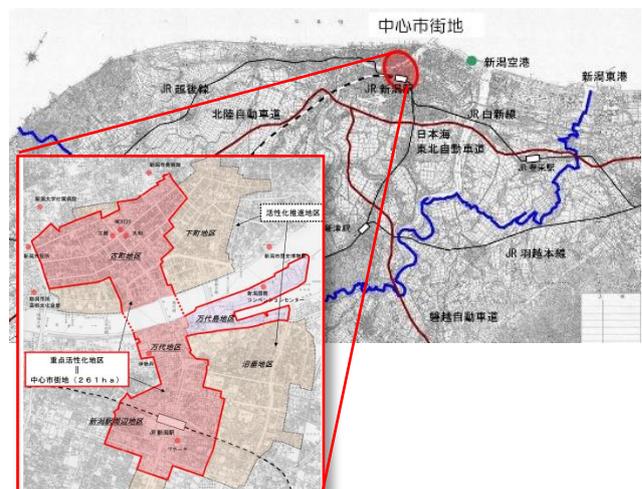
2) 対象区域

①.区域の概要

- ・ 対象区域は、人口78万6千人(令和2年5月現在)を有する政令指定都市新潟市の中心市街地である。以降に対象区域の特徴を示す。

対象区域の概要

- ・ 名称：新潟市中心市街地
(新潟駅周辺地区、万代地区・万代島地区、古町地区)
- ・ 面積：261ha
- ・ 人口：16,449人(令和2年4月30日現在)



▲対象区域位置

②.3 つの商業集積

- ・新潟市の商業集積地はその歴史的な経緯から以下の3つの地区に区分される。

◆古町地区

- ・新潟湊が繁栄を極めていた時代から商業・業務の集積地であり、大型店と老舗小売店が中心となって、市外、県外からも買い物客が訪れる商店街である。
- ・市民の間ではかつては「まちに行く」とは「古町に行く」と同義であったほど、新潟市の顔となっている地区である。

◆万代地区

- ・昭和に入って大規模な商業開発が進み、百貨店や大規模集客施設が集積する商業地区である。
- ・大型店や立体駐車場が隣接している構造を活かし、各施設の二階部分をペDESTリアンデッキで結んだことにより、地区内を回遊でき、人気ブランドショップも多いことから若い人にとって人気の高い地区である。

◆新潟駅周辺地区

- ・陸の玄関口である新潟駅を中心に大手事業所の本・支店等の業務系機能が集積し、ビジネス街の様相を呈している一方、近年では既成市街地の再開発も進んでいる。

◆万代島地区

- ・用途地域上では準工業地域となっているが、ここは同時に臨港地区でもあり、近年、都市における港の役割が見直され、賑わいを生む空間として整備が進んでいる。
- ・特に、コンベンション施設として平成15年にオープンした「朱鷺メッセ」が拠点機能を担っており、また、平成19年に移転した魚市場跡の活用等により、港の魅力を活かした集客効果が期待されている。

③.豊富な歴史的資源

- ・対象区域でも、特に古町及びその周辺には、みなとまちとして発展してきた歴史を裏付ける施設が今でも数多く残るほか、民間の所有物件に目を向けると、旧商家であった町家はもとより、国の登録文化財になっている料亭や旅館、蔵等も数多く存在し、みなとまちとしての景観を構成する重要な要素となっている。

④.多様な水辺空間

- ・対象区域の中央部を大河信濃川が横断しており、中心市街地の中であって豊かな水辺環境が創出されている。
- ・国の重要文化財である万代橋上流側では、全国初の緩やかな堤防(やすらぎ堤)の上に、植栽や東屋・ベンチ等が設置され、河川と一体となった親水空間として整備されている。また、当該堤防では、新しい水辺の活用の可能性を切り開く官民一体の取組みであるミズベリングプロジェクトが実施されており、まちなかにおける水辺空間を活用した良好な空間形成が進められている。
- ・一方で万代橋下流側は港となっており、まちと港が溶け合った新潟らしい風景を感じることができる。

3) 区域の目標

- ・ 本実行計画では、地域ストック(施設、空間、文化)を活かしたアイデアが次々に具現化される「クリエイティブシティ」の実現を目指す。
- ・ 「クリエイティブシティ」の実現により、まちなかでのアクティビティの充実による来街者の満足度やQOLの最大化を図るとともに、まちなかならではのクリエイティブなコンテンツの充実により、様々な価値観の対流を促進し、まちなかの賑わい創出を図るものである。

まちなかの賑わい創出の仕組みを実装



目標とする効果

まちなかでのアクティビティの充実により来街者の満足度や QOL が最大化

まちなかならではのクリエイティブなコンテンツが充実し、様々な価値観の対流が促進

賑わい創出

▲クリエイティブシティ実現の全体像

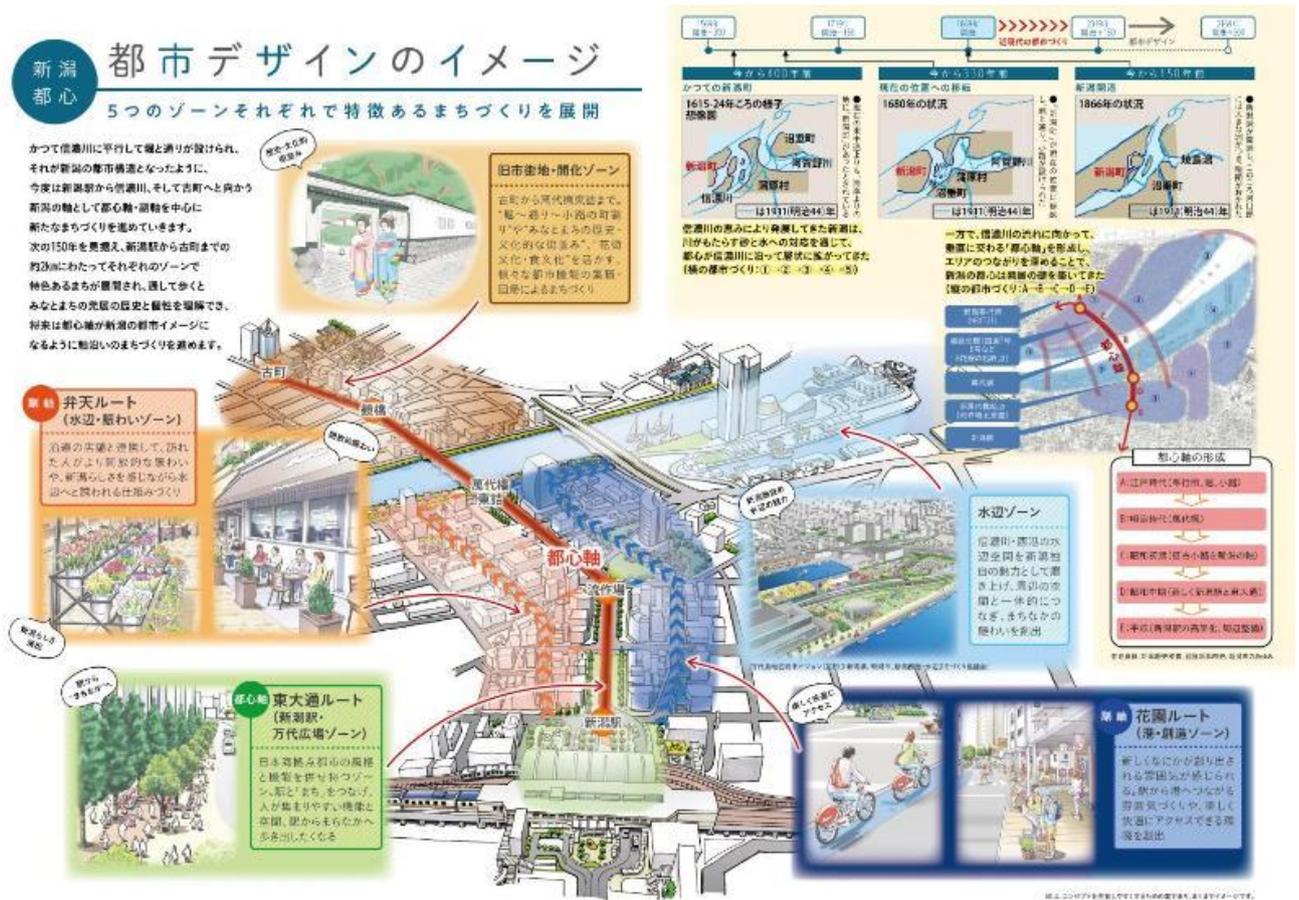
※(参考)区域における関連ビジョン

区域のまちづくりに関し、以下のビジョンが掲げられており、本スマートシティの取り組みとの親和性も高いことから、本スマートシティの取り組みは当該ビジョンとの整合性にも配慮しつつ、互いに連携しながら区域の目指すまちづくりの実現を目指す。

◆新潟都心の都市デザイン

2019年の開港150周年や新潟駅のリニューアル等、まちづくりの節目を契機として、新潟市の魅力向上や暮らしをより豊かなものとするため、これから先150年を見据えた都市デザインとして描かれたものである。

これまでの都市の歴史の中で、現在に至るまでの都市構造の変遷を振り返り、これから先150年を見据えた都市デザインとして理念がまとめられており、それぞれの特徴を有するゾーンと、新潟駅〜古町地区を結ぶ都心軸及び都心軸を補完する副軸が都市の目指すビジョンとして描かれている。



出典：新潟都心の都市デザイン

▲新潟都心の都市デザイン

◆にいがた2km(ニキロ)

新潟駅、万代、古町を結ぶ都心軸(ほぼ2km)沿線エリアを中心としたまちづくりを官民連携で進めるため、当該エリアについて親しみやすい呼称とロゴが新潟市より発信されており、今後都心軸を中心にまちなかの活性化を図っていくものとして、本実行計画の内容と親和性の高いビジョンが掲げられている。



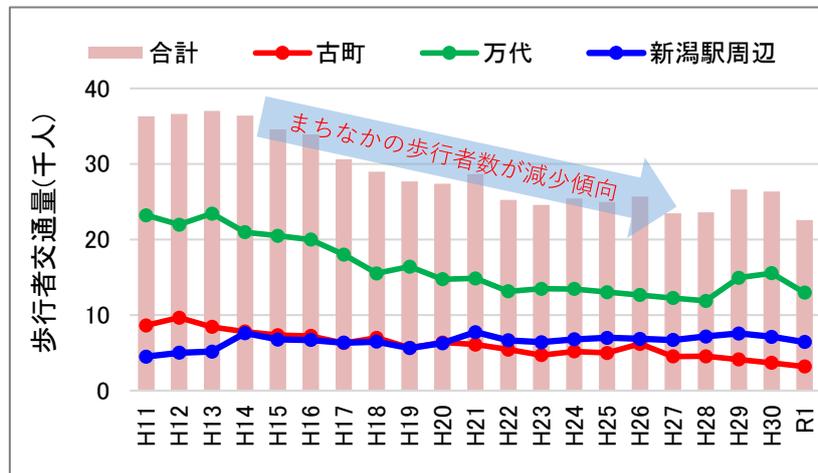
出典：新潟市HP

▲にいがた2km

4) 区域の課題

①.区域の現状

- ・対象区域内の主要断面における歩行者交通量の推移をみると、新潟駅周辺では横ばい傾向にあるのに対し、古町地区及び万代地区では減少傾向にあり、区域全体としても減少傾向にある。



▲区域内主要断面での歩行者交通量の推移(各地区1箇所あたり)

- ・一方で、本区域には商業施設、文化・歴史施設、観光施設、緑地等多様な拠点施設が点在しており、豊富な地域ストックを有している。



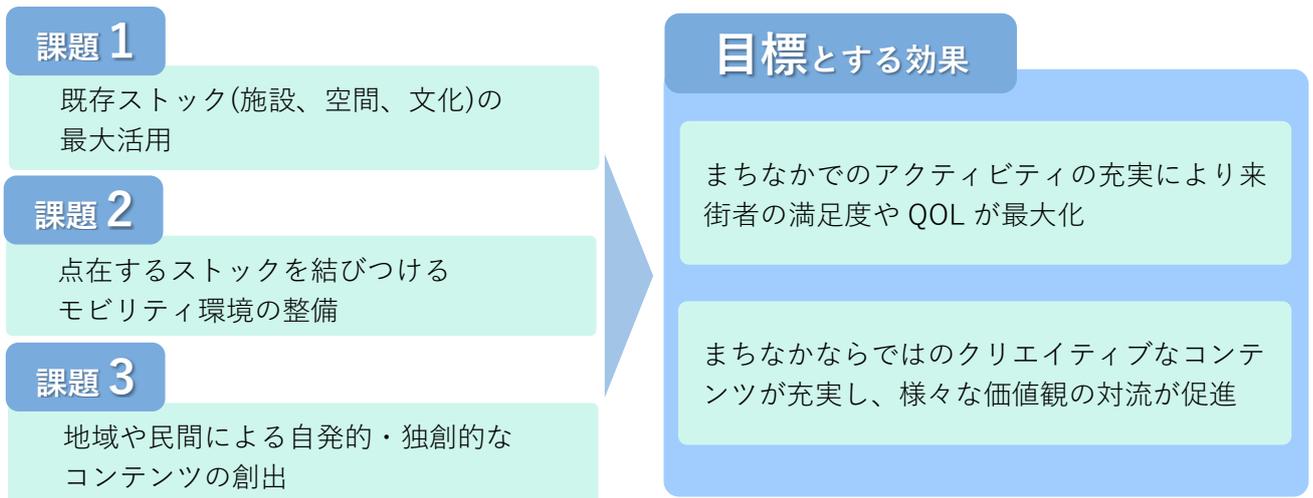
※1：新潟市中央区役所 HP
 ※2：ミズペリングプロジェクト事務局 HP
 ※3,4,5,6：新潟市公式観光情報サイト

※出典：国土数値情報

やすらぎ提※2
▲区域周辺の地域ストックの分布

②.区域の課題

- ・ 区域の現状から、本実行計画における区域の課題を以下のように設定する。
- ・ また、以下の課題を解決するため、地域が保有するアイディアの実行を後押しする「アドバイザーツール(スマート・プランニング)」と、創出したコンテンツを来街者に届ける「まち全体で共有する統合媒体(統合アプリ)」からなる「地域ストック活性化ツール」を、地域が主体で活用できるように実装することを目指す。



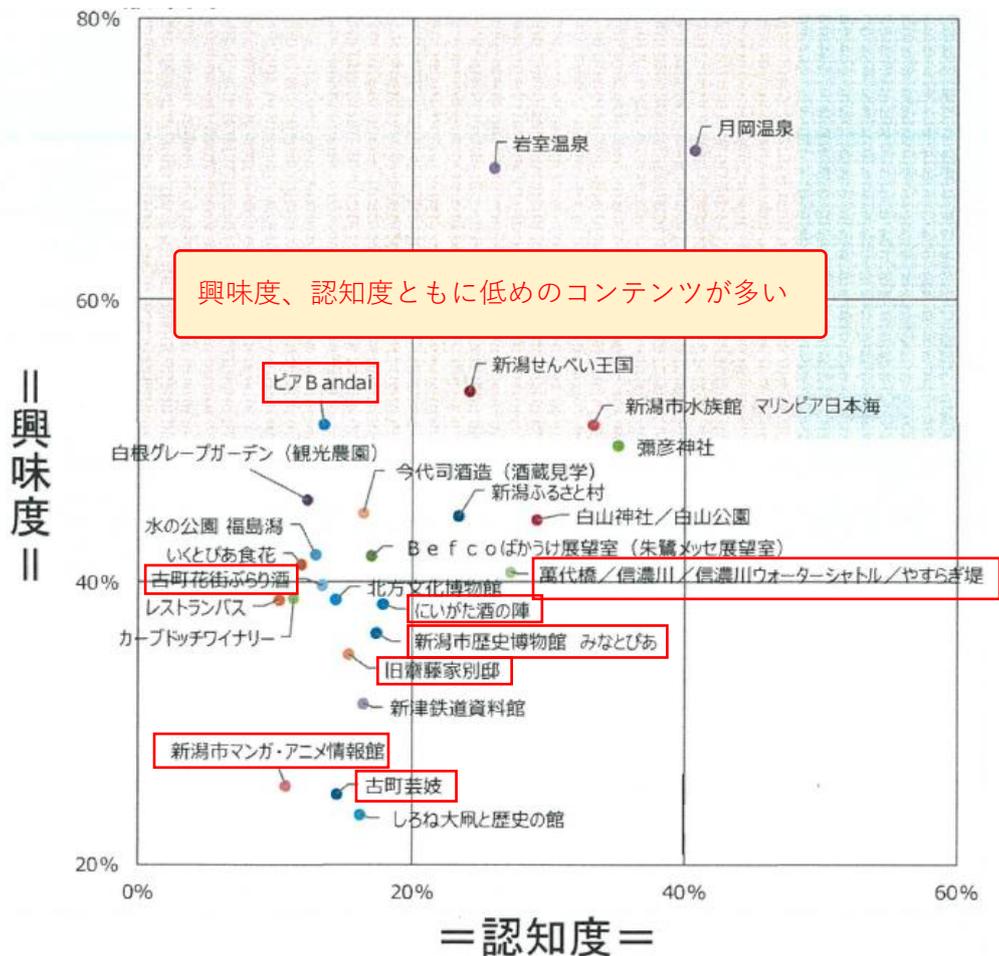
「地域ストック活性化ツール」の地域実装を実現



▲区域の課題及び課題解決を図る地域ストック活性化ツール

◆課題1：既存ストック(施設、空間、文化)の最大活用について

- ・対象区域周辺には、魅力的な地域ストックが多数潜在するものの、これらが地域を活性化するコンテンツとして活かしきれていない。
- ・従って、これらの豊富な地域ストックを如何に活用し、地域ならではの独創的なコンテンツを創出するかが、対象区域の賑わい創出に向けた課題である。



出典：平成 29 年度新潟市来訪者動態等調査報告

▲対象区域周辺の観光資源に関する認知・興味

◆課題2：点在するストックを結びつけるモビリティ環境の整備について

- ・対象区域のモビリティ環境は、区域を南北方向に縦貫する都心軸を走る基幹路線(BRT)を中心に、枝状に形成された路線バス網が主要な交通手段となっている。
- ・一方で、区域周辺の観光施設等は広範囲に点在しており、公共交通を利用した周遊が行いにくい状況となっている。
- ・既存の周遊手段としては、区域周辺の複数観光施設等を通る新潟市観光循環バスがあるが、今後より一層の回遊性の向上を行うためには、多種多様な来街者による個別のニーズに対応可能な自由度の高い便利なモビリティ環境の整備が必要と考えられる。

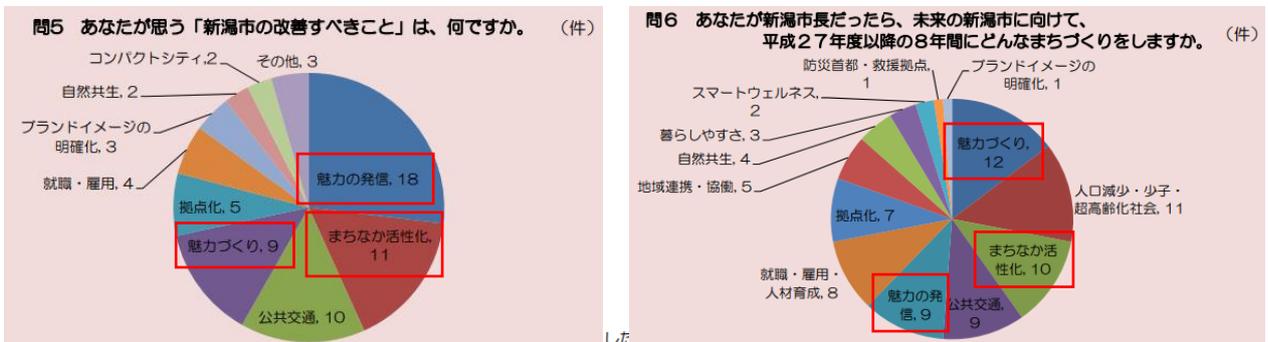


出典：バス路線図(新潟市中心)

▲対象区域周辺のバス路線網

◆課題3：地域や民間による自発的・独創的なコンテンツの創出について

- ・対象区域に存在する地域ストックの特徴として、多くの人が集まりやすいレジャー施設やアミューズメント系施設の他、シンボリックな施設等は少なく、比較的小規模な文化系施設や歴史系施設等が様々な位置に点在している。
- ・一方で「モノ消費からコト消費」へと個々のニーズが変化している近年にあって、他の場所には無い新潟市ならではの体験や、新潟市に来ることでしか得られないコンテンツを外部に強く認知させるため、外部の方々に対象区域を訪れることの理由付けや意味付けを行っていくことが重要と考えられる。
- ・そのため、地域の文化、歴史、魅力に精通し、地域を盛り上げていくことに対して高いモチベーションを持っている地元の関係者が主体となり、如何に自発的・独創的なコンテンツを創出していくかが課題として考えられる。



○平成27年度以降の8年間に取り組むべきこと（主なもの）

魅力づくり 非日常を経験できる観光内容づくり。 外国人も楽しめるまちづくり。 『湊町のおもてなし』を再構築。 信濃川の観光利用。(カヌー、渡し船の復活)	人口減少・少子・超高齢化社会 子育てしやすいまちづくり。 若者のリターン・定住を促進。 高齢者の社会参加と働く場の確保。 セカンドハウスの『半定住者』を増やす。
まちなか活性化 若い人が集まる魅力のある街にする。 古町の活性化。やるときはドカッとやる！！ 堀復活。昔の町並みを残す。	公共交通 公共交通機関の整備。 電車とバスの連携をわかりやすく。 新幹線の空港乗り入れ。
魅力の発信 ロシアからの観光客の誘致の促進。 駅やまちなかに観光案内所を複数設置。	就職・雇用・人材育成 人材育成の支援強化・起業支援。 漫画家志望の若者に限定したシェアハウス運営。
拠点化 中国、ロシアとの船便を活発化。	地域連携・協働 地域コミュニティを福祉に活用。
自然共生 自然を大切に。	暮らしやすさ 職住近接で幸せを感じるまちづくり。
スマートウェルネスシティ 自動車に頼らないまちづくり。	防災首都・救援拠点 首都直下型地震の際に、食料・エネルギー供給基地として機能するための各種整備。

出典：県外にお住いの新潟市サポーターアンケート調査まとめ(H26.3)

▲県外からみた新潟市の課題

5) KPI の設定

- ・プロジェクトの実施による区域の課題解決及び目標の達成状況を評価するため、実行計画全体としてのKPIを下表の通り設定する。
- ・KPI設定の考え方として、本実行計画で全体の目標としているまちなかの賑わい創出の達成に対し「来街者の視点」及び「地域関係者・事業者の視点」の両面の活性化が重要と考えており、これら両面の視点により計画の進捗管理を行っていくものとし、また、成果重視の進捗管理を行う観点から、アウトカム指標を用いるものとする。
- ・具体的なKPIの設定として、「来街者の視点」については、来街者の満足度を直接アンケート等により調査することが考えられるが、現状ではこのようなアンケートを定期的実施できる体制が整っていない状況である。
- ・一方で、既往文献等を参考とすると、人の行動と満足度には関連性があり、行動頻度または目的地や移動経路として選択される施設や空間が多い程来街者の満足度が高くなることが示唆されているものもあることから、当面は現状でも計測が可能な来街者数や滞在時間・立寄り箇所数をKPIとして設定する。
- ・また、「地域関係者・事業者の視点」については、本来であれば区域内における消費額の増加割合等が直接的な評価指標と考えられるが、これも現時点で計測が困難と考えられることから、当面は地域の関係者や事業者により自発的に創出・提供される新たなサービス等の件数を暫定的な評価指標として設定する。

▼実行計画全体のKPI

区域の目標	プロジェクト全体のKPI	目標値	
		現状	2022年度
◆ <u>来街者の視点</u> 回遊性の向上及び来街者の満足度やQOL向上	主要箇所における歩行者数・来街者数	約5,850人/箇所	6,000人/箇所
	区域内の一人あたり滞在時間	今年度から計測	2022年度まで毎年
	区域内の一人あたり立寄り箇所数	今年度から計測	前年度以上を維持
	(参考)アンケート調査による来街者の満足度	※計測方法等を精査の上適宜計測	
◆ <u>地域関係者・事業者の視点</u> まちなかならでの自発的・独創的コンテンツの充実	区域内の空家・空き店舗の自発的な活用件数	90件/年(全市)	2022年度まで毎年
	公共空間を利用したイベントの自発的な発生数	今年度から計測	前年度以上を維持
	地域企業等による自発的な統合アプリ活用数	今年度から計測	
	(参考)区域内における消費額の増加割合	※計測方法等を精査の上適宜計測	

6) 先進的技術の導入に向けた取組内容

①.取組の全体像

- ・ 区域の課題を解決し、目標を達成するために、「地域が保有するアイデアの実行を後押しするアドバイザーツール」と「創出したコンテンツを来街者に届ける、まち全体で共有する統合媒体」を地域が主体で活用できるように実装し、地域ストックを活かしたアイデアが次々に具現化される「クリエイティブシティ」を目指していく。

取組み全体の実施イメージ

◆統合アプリの実装

- フェーズ1：データ取得機能追加
- フェーズ2：機能拡充・利用促進
- フェーズ3：地域実装(地域関係者や事業者の活用促進)

◆独創的コンテンツの実装およびまちづくりの仕組みの実装

- フェーズ1：「地域ストック活性化ツール」を活用したコンテンツおよび仕組みの試行実施
- フェーズ2：コンテンツおよび仕組みの地域実装(運営体制、ビジネスモデルの確立)
- フェーズ3：コンテンツおよび仕組みの自発的な発生



◆スマート・プランニングの実装

- フェーズ1：データ分析・可視化、シミュレーションツールの開発
- フェーズ2：機能拡充・モデルや精度の更新
- フェーズ3：地域実装(地域関係者や事業者の活用促進および資金調達への活用)

取組みの到達点

- ・ 空間やソフト(統合アプリ等)等、まちなかの活用可能なリソースを活用し、地域関係者や事業者、個人等が自発的に様々なコンテンツを発生させ、賑わいを創出
- ・ まちなかの様々な場所で発生するコンテンツ等の周遊をサポートするモビリティ環境が整備され、まちなかの回遊性が向上

▲取組みの全体像

- ・ 上述の全体像の実現を目指すための個別の取組み(プロジェクト)として、以下の内容を推進する。また、次頁以降より、各取組みの概要について詳述する。
- ・ 尚、取組み(プロジェクト)の内容については、本計画策定時点のものであり、計画の進捗等に応じ適宜更新を行うものとする。

地域ストック活性化ツールの実装

データ駆動型コンテンツ統合アプリの開発

スマート・プランニングの実装

都市情報基盤(動的データプラットフォーム)の構築

このツールの活用を軸に・・・

新たなまちづくりの仕組みの実装

スマートなインセンティブ付与

あらゆる空間を活用した集客系コンテンツの創出

レンタサイクルの高度化

来街者への情報発信・レコメンド

公共空間、空き地・空き家活用促進プラットフォーム

ヘルスケア・ビューティーケアプラットフォーム

新潟市版 MaaS および新たなモビリティの導入

▲個別の取組み内容(実行計画策定時点)

②.個別の取組み内容(既存ストック活性化ツールの実装)

a. データ駆動型コンテンツ統合アプリの開発

◆取組みの概要

- ・ 既存のシティガイドアプリを改良し、区域内における様々なコンテンツを一括で提供可能とする統合アプリを開発する。
- ・ また、対象区域における来街者個々のアクティビティデータが取得できる仕組みを構築し、施策効果の分析やシミュレーションに活用する。

◆現状

- ・ 協議会構成員である新潟古町まちづくり(株)(都市再生推進法人)が保有する既存のシティガイドアプリが稼働している。



◆現行の機能

- ・ まちあるき
- ・ 観光循環バスの情報確認
- ・ レンタサイクルの利用情報やステーションまでのルート案内
- ・ 駐車場までのルート案内
- ・ イベント案内、会場へのルート案内、お得情報の案内
- ・ クーポン発行
- ・ お気に入りスポットの登録
- ・ 現在地から目的地までのルート案内
- ・ エリア内のお店までのルート案内
- ・ エリア内の観光施設の見所やルートの案内
- ・ BRT や観光循環バスに関する情報提供、バス停までのルート案内
- ・ 防災施設までのルート案内
- ・ スペシャルビジター向けコンテンツ
- ・ エリア内の懐かしい写真の閲覧

出典：App Store

▲既存のシティガイドアプリの概要

◆具体的な取り組み内容

- ・ 既存のシティガイドアプリを活用し、本プロジェクトにおけるデータ収集やコンテンツ提供のプラットフォームとなるスマートシティアプリ(データ駆動型コンテンツ統合アプリ)を開発する。
- ・ 当該アプリの開発にあたっては、以下のコンセプトをベースとしつつ、実証実験等を重ねながら順次改良を行う。
- ・ 当該アプリをまちづくりのプラットフォームとして価値を高めていくため、市内または市外の来街者への認知を高め、利用者数や登録者数を増加させることが重要と考えられる。そのため、単にアプリの実装だけではなく、プラットフォーム価値の向上について重点的な検討を行う。

アプリ開発のコンセプト

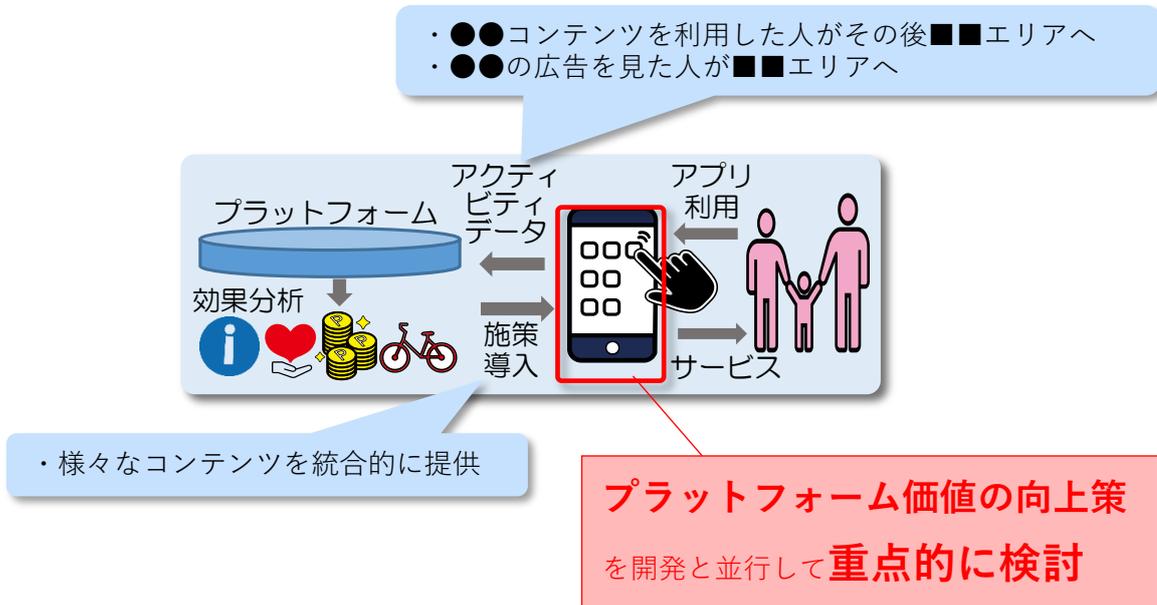
◆コンテンツ創出・発進機能

地域に関わる個々の関係者がコンテンツの創出に参画しやすい仕組みを構築する。

例：広告やインセンティブ提供機能、公共空間や空地・空家活用のプラットフォーム

◆データ収集機能

区域内における来街者のきめ細かなアクティビティデータを収集する。



▲データ駆動型コンテンツ統合アプリの導入イメージ

b. スマート・プランニングの実装

◆取組みの概要

- 取得したアクティビティデータを分析し、各コンテンツの実施効果を可視化するツール及び蓄積されたアクティビティデータを基に、来街者の行動モデルを順次更新し、コンテンツの実施効果を事前にシミュレーションできるツールを開発し、「地域が保有するアイディアの実行を後押しするアドバイザーツール」としての実装を図る。

◆現状

- 対象区域内の一部地区を対象に、新潟市主催による公共空間利活用社会実験(R1.11.1(金)～R1.11.17(日))と連携し、回遊シミュレーションモデルを用いた分析を試行的に行った。
- 本取組みにより、市の保有データや購入可能なデータにより当該シミュレーションを実施することが可能であることが確認できた他、現行のシミュレーションモデルでも当該地区の回遊行動についての傾向が、概ね再現可能であることが知見として得られた。

居心地良く、歩きたくなるまちなかづくり！新たな過ごし方を考えよう！

新潟駅・万代地区をつなぐ 公共空間利活用社会実験

日時 令和元年11月1日(金)～11月17日(日)まで
会場 旧新潟駅前通りの弁天仮設駐輪場周辺 (新潟市中央区弁天2丁目地内)

旧新潟駅前通り(高作場～弁天公園)は、新潟駅と万代地区の2つの賑わいエリアをつなぐ結節点。道路等の公共空間を活用しながら、テーブル・イス等の休憩スペースのつくりや催しなどにより、「居心地良く、歩きたくなるまちなかづくり」の推進につなげるため、今回は旧新潟駅前通りで公共空間利活用社会実験を実施します。普段は通り過ぎるだけの場所が新たな空間に変わる機会に、改めてまちなかの風情や時を感じ、これから先のまちなかのあり方を考えてみましょう！

日常【平日】
安心安全な歩行空間
居心地の良い空間

非日常【土休日】
+賑わいが
まちに溢れる空間

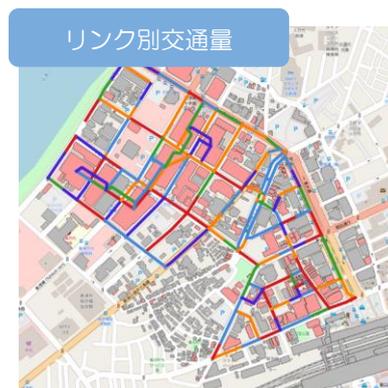
●弁天駐輪場はご利用できません。
(10月29日～11月19日)
●駅前中庭、仮設駐輪場も利用下さい

●市道南2-51号線は車両通行止めとなります。
(10月31日～11月18日)

主催：新潟市／新潟駅・万代地区をつなぐ公共空間利活用実行委員会
後援：新潟駅前弁天通商店街振興組合／万代シティ商店街振興組合
問い合わせ先：新潟市都市計画課 025-226-2679



シミュレーション



▲回遊シミュレーションの試行

◆具体的な取組み内容

- ・ 当該アドバイザーツールは以下の方針をベースに開発を進めていき、実証実験等を重ねながら有効性が確認できた機能から順次本格稼働に展開する。

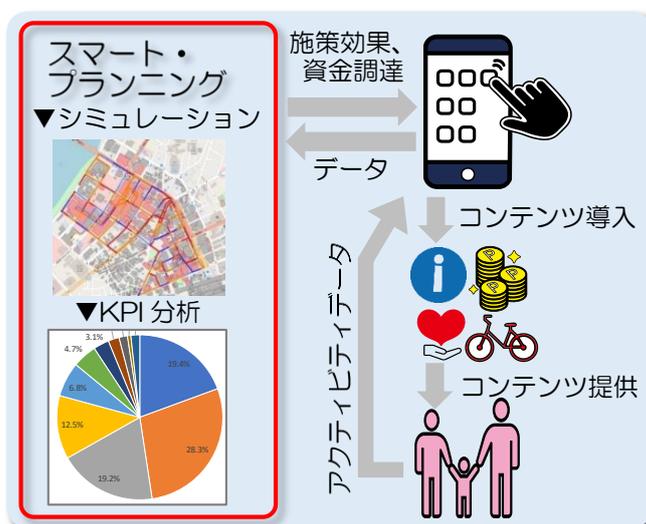
アドバイザーツールの開発方針

実行計画の取組みによる収集データから施策効果や KPI を分析・可視化する手法を体系化する。

シミュレーションの対象エリアを対象区域全域に拡張する。

コンテンツの種類に応じた来街者の行動特性を分析し、シミュレーションモデルを順次拡張する。

各種分析・可視化までをツール化し、作業の効率化を図る。



▲スマート・プランニングを活用したアドバイザーツールの実装イメージ

c. 都市情報基盤(動的データプラットフォーム)の構築

◆取組みの概要

- ・ 統合アプリ等から得られるリアルタイムな行動データ等、実行計画全体の取組みを通じて得られる様々なデータや、官民が保有する既存データを蓄積し、各種データの組合せや加工等を通じて多様な分野での活用を促し、新たなデータサービスに展開していくオープンで動的なデータプラットフォームを構築する。

◆現状

- ・ 新潟市のホームページ上において、市のホームページ上で公開されている情報や、利用者からオープンデータ化の要望のあった市保有情報について、可能な限りのオープンデータ化がなされており、今後もより使いやすいサイトとなるよう、継続的にオープンデータの充実を図るものとしている。



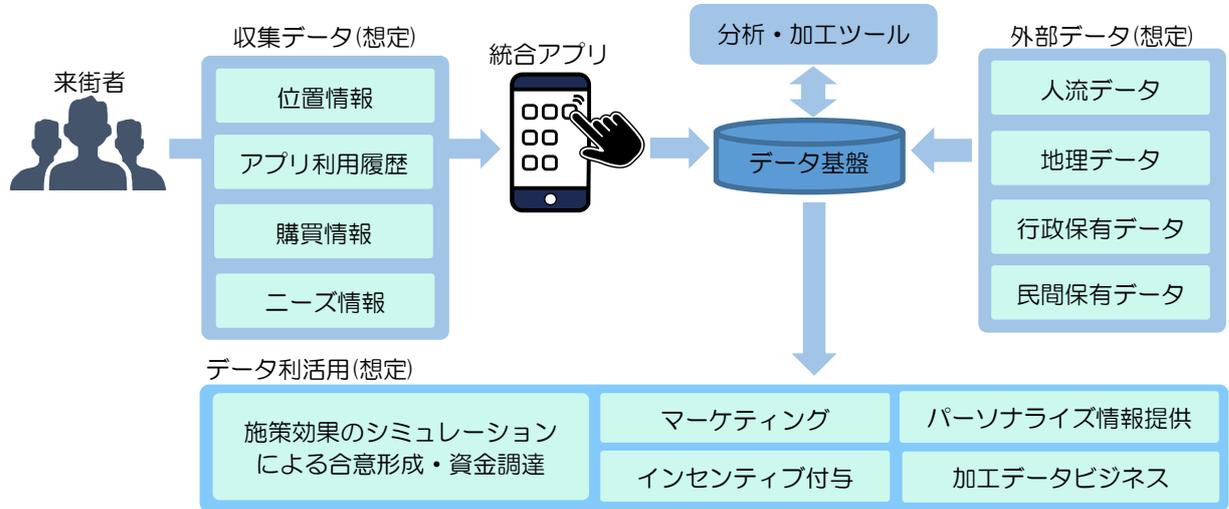
出典：新潟市オープンデータ検索サービス

▲市のオープンデータ

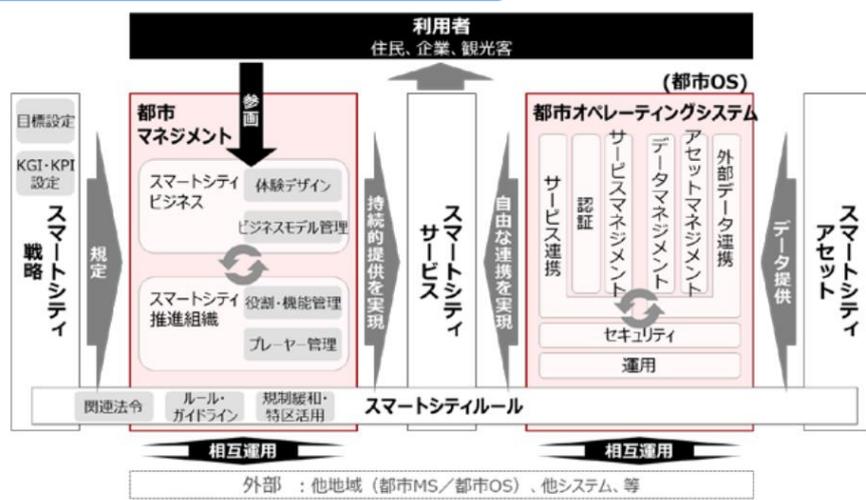
◆具体的な取組み内容

- ・ 専門のプロジェクトチームを設置して取組み体制を整え、実行計画全体の取組みを通じて得られる収集データとの連携を図りながら、当該プラットフォームのあり方を検討していく。
- ・ また、イノベーション創造プログラム(SIP)によりまとめられた、スマートシティの基本的な構造のあり方を示した「スマートシティリファレンスアーキテクチャ」において、スマートシティの基本的な構造として「都市OS」が位置付けられており、将来的には各都市における取組みが都市OSを介して円滑に連携できるような他都市との連携についても視野に入れる必要がある。
- ・ したがって、本基盤整備においては、個々のコンテンツの実装状況に応じ、徐々に機能を積み上げていく形で構築を進めつつも、将来的な「都市OS」として実装することも視野に入れながら、新潟市スマートシティにおける都市OSのあり方や構造を作り上げていく。

新潟市スマートシティにおいて想定されるデータ活用



標準的なスマートシティ構造(都市 OS の位置づけ)



出典：スマートシティリファレンスアーキテクチャホワイトペーパー

▲新潟市における主なデータ活用概要及び標準的なスマートシティ構造の全体像

③.個別の取組み内容(新たなまちづくりの仕組みの実装)

a. スマートなインセンティブ付与

◆取組みの概要

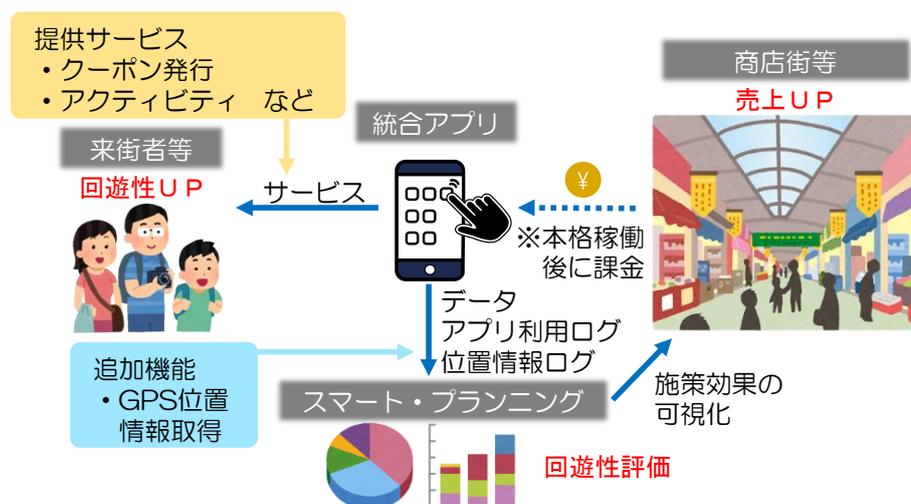
- ・ 統合アプリを活用し、来街者に対して様々なインセンティブや情報提供を、地域に関わる様々な主体が手軽に行うことができるコンテンツ提供媒体を構築し、地域関係者の積極的なまちづくりへの参画を促進させることにより、まちなかにおける来街者へのサービスの充実を図る。
- ・ また、アプリから得られるデータを活用し、当該コンテンツのまち全体への波及効果を分析し、継続的なまちづくり戦略に活用するとともに、コンテンツ提供媒体としての付加価値を高めることにより、持続可能なスマートシティを実現するためのビジネスモデルの構築を目指す。

◆現状

- ・ 協議会構成員である新潟古町まちづくり(株)により、これまでも区域内でのクーポン発行やスタンプラリー等の様々な取組みが行われている。
- ・ 今後は、統合アプリを共通の媒体として活用することにより、地域内の様々な主体による自発的・積極的に独創性のあるコンテンツの導入を促進し、更にまちなかでのアクティビティを充実させることが求められている。

◆具体的な取組み内容

- ・ 当面の取組みとして、「まちなかでのアクティビティ提供」と「MICEと連携したおもてなしコンテンツ」を試行的に実施し、まちへの波及強化を計測する実証実験を実施する。
- ・ 当該実験において、まち全体への波及効果を計測することによる統合アプリのインセンティブ提供媒体としての有効性や、個々の企業等を巻き込んだビジネスモデルの可能性を検証する。
- ・ また、中・長期的には、実証実験で有効性が確認できたコンテンツから順次本格稼働するとともに、地域主体で発案された新たなコンテンツについても実証実験等を実施し、コンテンツの充実を図っていく。



▲統合アプリを活用したインセンティブ提供媒体の実装イメージ

b. あらゆる空間を活用した集客系コンテンツの創出

◆取組みの概要

- ・ ICTの活用により、区域内のあらゆる空間を活用した集客系コンテンツ(野外イベント、野外オフィス、オンラインコミュニティ等)を創出するとともに、統合アプリとの連動等から得られるデータを活用し、当該コンテンツの導入によるまち全体への波及効果を分析することにより、集客系コンテンツの適正配置により来街者の回遊性向上を図る仕組みを構築する。

◆現状

- ・ 区域内では公共空間や民間の所有する空間、個々の店舗等、様々な空間で集客系のイベントが随時開催されている。
- ・ 今後は、これらの既存のコンテンツに加え、ICTを活用した新たな体験価値を生み出すことにより、更なる集客を目指していく必要がある。



出典：オマツリジャパン掲載記事(2020.4.25)(左)、新潟ジャズストリート公式サイト(中央)、新潟市HP(右)

◆具体的な取組み内容

- ・ 上記に示したイベントの他、実施可能な集客系コンテンツを順次企画し、まち全体への波及効果を分析・検証する実証実験を今後実施していく。
- ・ また、実証実験の結果を踏まえ、コンテンツのジャンルやコンテンツどうしの組み合わせ・最適配置(相乗効果)に関する知見を分析し、各コンテンツの連携促進により、まち全体での集客を図る仕組みの構築を目指していく。



▲導入する集客系コンテンツのイメージ

※実施済みの取組み

【信濃川河川敷(やすらぎ提)を活用した水辺空間利用】

- ・ 令和2年度において、信濃川河川敷(やすらぎ提)にて、屋外ワーケーションオフィスをイメージした水辺空間利用の社会実験を実施した。
- ・ 当該実験においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、統合アプリとのデータ連動までは実施できなかったものの(統合アプリ内でのバナーやランディングページの掲載は実施)、既存空間の新たな活用方法として一定の注目を集めたところであり、今後は統合アプリとのデータ連動等により更なる利便性向上に期待するところである。

▲信濃川河川敷(やすらぎ提)利活用実験

c. レンタサイクルの高度化

◆取組みの概要

- ・ 既存のレンタサイクルを高度化し、分散する地域ストックの周遊促進を図るとともに、自転車利用者の連続的なアクティビティや回遊行動特性を分析し、最適なサイクルポート配置やサービス運用等が検討可能な仕組みを構築し、来街者の回遊性向上を図る。

◆現状

- ・ 既存のレンタサイクルシステムとして、市が回収した放置自転車を活用した「にいがたレンタサイクル」が存在するが、現状のシステムは管理や利用実績の集計に地域の人手を要しており、また、現行のサイクルポートは主に特定の施設内に設置されていることから、利便性や運用の効率性に課題がある。

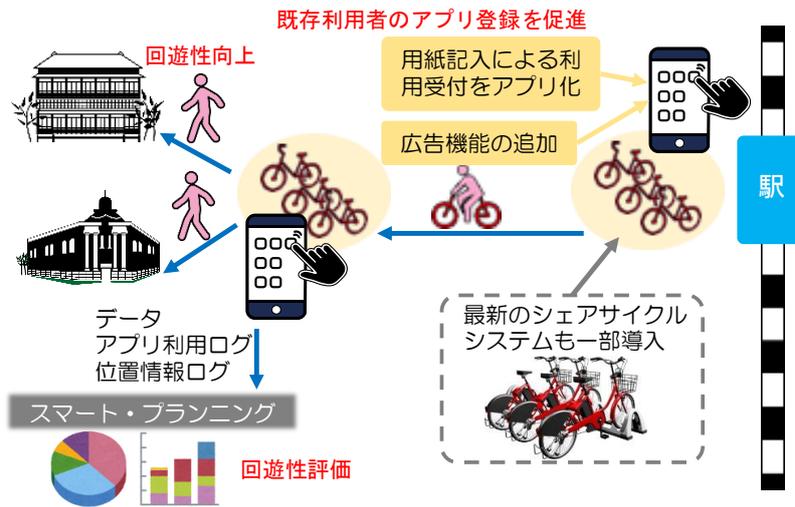


出典：にいがたレンタサイクルマップ

▲既存のレンタサイクルマップ

◆具体的な取組み内容

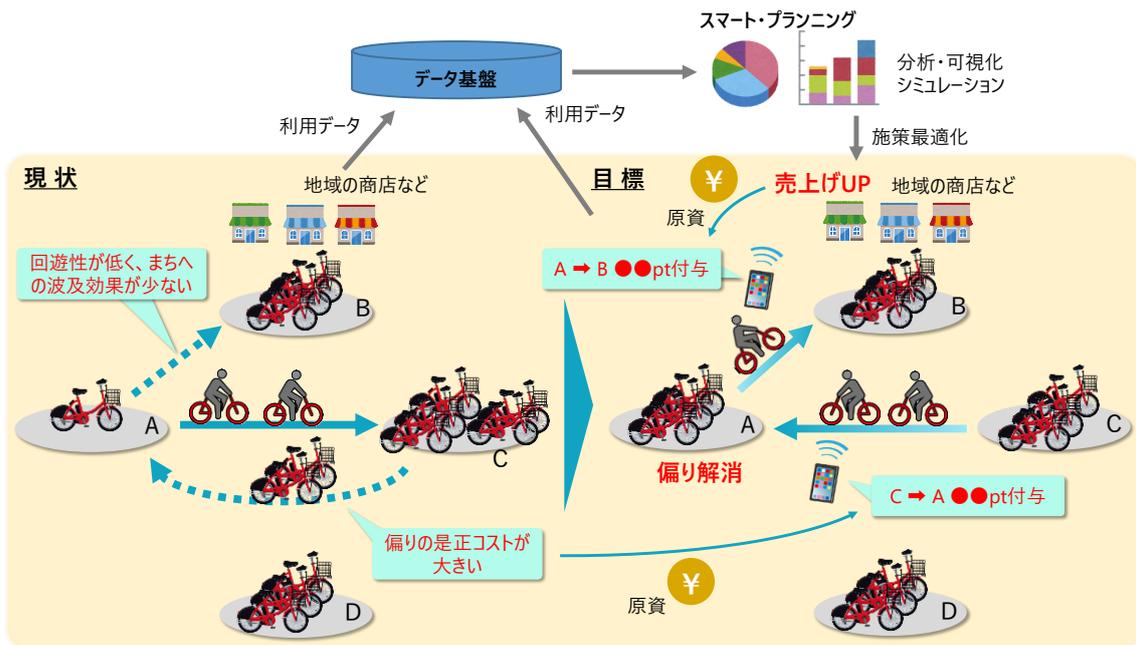
- ・ 駅構内やまちなかの公共空間等にサイクルポートを設置したコミュニティサイクルを導入し、来街者の周遊を促進する。
- ・ また、統合アプリと連携した実証実験を通じ、自転車利用後も含めた連続的なアクティビティデータを取得し、自転車の活用によるまち全体への波及効果を分析することにより、まちなかの賑わい創出に最大限効果的なシェアサイクルシステムの実装を目指す。



▲具体的な取組みの全体像

◆実行計画での主な実施内容(案)

- ・ 既存のレンタサイクルシステムの高度化(手続きのアプリ化)
- ・ 高度なシェアサイクルシステムの導入
- ・ 公共空間等を活用したポート配置の最適化
- ・ 利用データを活用したインセンティブ付与(偏り是正作業の効率化や観光拠点等への誘導)



▲利用実績データを活用したインセンティブ付与のイメージ

d. 来街者への情報発信・レコメンド

◆取組みの概要

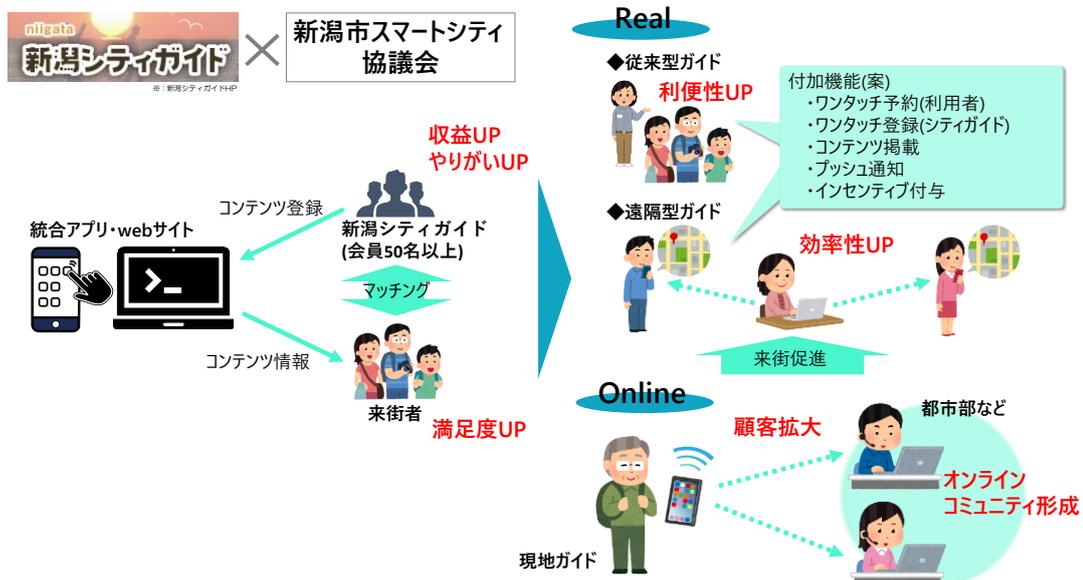
- ・ 統合アプリ等から得られるデータで来街者の属性別の行動特性を把握し、個々のきめ細かなニーズに応じてパーソナライズ化されたレコメンドや情報発信(プッシュ通信)を行うことにより、区域内に点在する様々な地域ストックに来街者を積極的に誘導し、まち全体の活性化を図る。

◆現状

- ・ 既存のアプリにおいても、利用者の属性や利用履歴が取得可能な状況であり、区域内のマーケティング等に活用された実績もあるが、データの集計や分析に負担を要しており、常時このようなデータの利活用は行われていない。
- ・ 地域の既存のレコメンド機能として、観光ボランティアガイドを中心とした任意組織「新潟シティガイド」により、ボランティアガイドが都心部周辺の主要箇所を案内する「予約のいらないまち歩き(2時間、一人あたり500円)」が存在する。
- ・ 今後は、アプリの利用履歴と位置情報を紐づけたアクティビティデータを取得することにより、来街者の属性に応じた欲求(需要)や実際の行動特性を、よりきめ細かく効率的に把握するとともに、プッシュ通信等による積極的且つ効果的な来街者の誘導を図る仕組みが求められる。

◆具体的な取組み内容

- ・ 専門のプロジェクトチームを設置して取組み体制を整え、実行計画全体の取組みを通じて得られる収集データとの連携を踏まえつつ、当該コンテンツのあり方を検討する。
- ・ レコメンドのパーソナライズ化には来街者に関する膨大なデータが必要と考えられるため、早急の実現は困難と考えられるため、当面の取組みとしてパーソナライズ化は将来的な目標としつつも、来街者の増加や満足度向上を図るため、早急に実施が可能なレコメンドや情報発信に関する施策について検討を行う。
- ・ この際、地域に既に存在するレコメンドや情報発信機能(新潟シティガイド等)について整理し、可能な限りこれらと連携した施策を検討する。



▲シティガイドと連携したレコメンドの仕組みのイメージ(案)

f. ヘルスケア・ビューティーケアプラットフォーム

◆取組みの概要

- ・市の健康施策と連携したコンテンツや、新潟市が誇る多様な食文化等、地域の特徴を活かしたヘルスケア・ビューティーケアコンテンツを実装し、来街者のQOL向上を図る。

◆現状

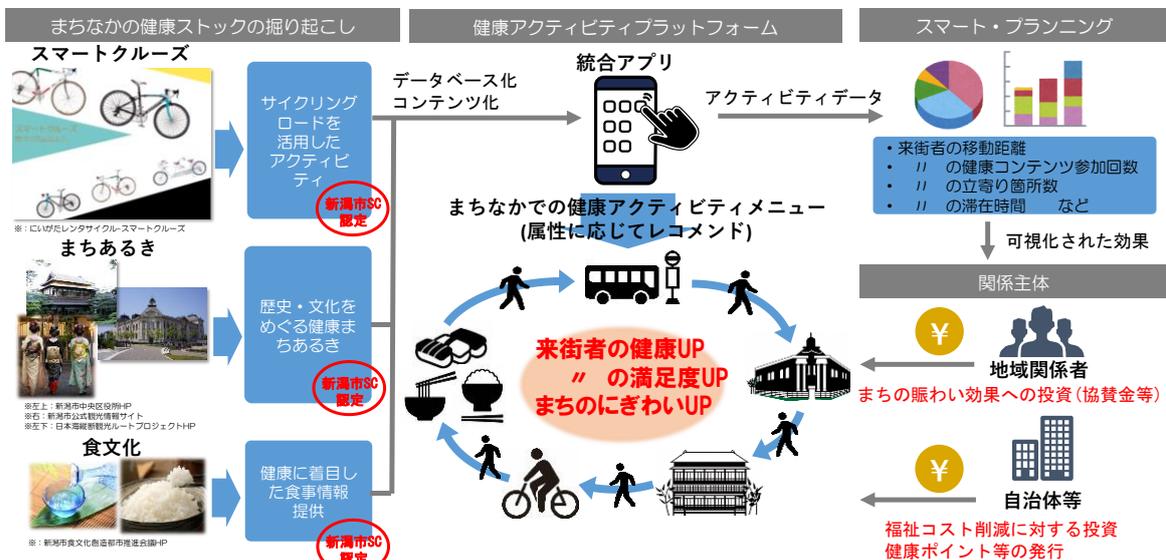
- ・新潟市では、市民が自然と健康づくりに参加できるような「健幸都市づくり：スマートウェルネスシティ」を目指し、各種の関連事業が実施されている。
- ・市の健康施策の一環として、エコ活動・健康づくりに係る対象事業の参加により、商品券やバス乗車ポイントが得られる「にいがた未来ポイント事業」が実施されてきたが、当該ポイントを展開する上で各拠点に専用の端末が必要となる等、インフラ整備の面で課題があり、令和3年3月31日をもって発行終了となる予定である。



出典：新潟市HP

◆具体的な取組み内容

- ・専門のチームを設置して取組み体制を整え、プロジェクト全体の取組みを通じて得られる収集データとの連携を踏まえつつ、当該コンテンツのあり方を検討する。
- ・当面は、区域内に潜在する健康ストックを発掘・データベース化し、まちなかでの回遊と健康増進を掛け合わせたコンテンツを来街者に提供する健康アクティビティプラットフォームの実装を目指していく。
- ・健康増進と回遊促進の相乗効果により様々な効果が期待できることから、当該プラットフォームの構築にあたり、地域関係者や行政との連携を図る。また、当該プラットフォームにおけるインセンティブ付与を行うインフラとして、統合アプリが活用できる可能性が考えられるため、市のポイント事業との連携の可能性についても再度検討を行う。



▲健康アクティビティプラットフォームの実装イメージ(案)

g. 新潟市版 MaaS 及び新たなモビリティの導入

◆取組みの概要

- ・ 既存のBRTや路線バス等の市の公共交通の特徴を活かし、統合的な移動サービスを来街者に提供するモビリティプラットフォームを実装する。
- ・ また、協議会が有するシーズを活用し、オンデマンド交通、社用車活用カーシェア、自動運転等の新たなモビリティサービスの導入により、区域内のきめ細かなニーズに対応可能なモビリティ環境を整備する。

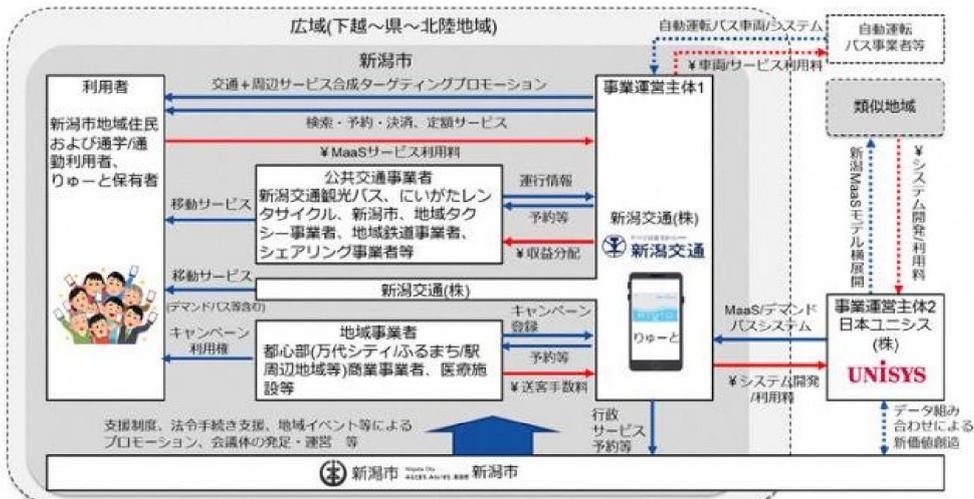
◆現状

- ・ 2019年10月1日(火)～12月31日(火)の期間において、新潟市内を中心とした観光型MaaSの実証実験が行われている。
- ・ 2020年3月1日(日)～3月31日(火)の期間において、経済産業省、国土交通省の「スマートモビリティチャレンジ」の一環として、MaaSアプリ及びオンデマンドバスの実証実験が行われている。



観光型 MaaS 実証実験(2019 年度)

出典：JR 東日本 HP



出典：経済産業省 HP

◆具体的な取組み内容

- ・ 専門のプロジェクトチームを設置するとともに、別途進行中のMaaS関連の取組みや交通事業者との連携を図り、区域における統合的なモビリティサービスのあり方を検討する体制を構築する。

④.取組の特徴

- ・ **【先進性】** アプリ利用情報とGPS位置情報を紐づけたアクティビティデータを収集することで、施策による行動変容や、まち全体への波及効果等、きめ細かな行動分析が可能となるデータを収集する仕組みに関する知見が得られる。
- ・ **【先進性】** 現行の回遊性評価手法では考慮できない「インセンティブ提供効果」「集客系コンテンツの提供効果」「自転車利用者の回遊行動」等、各取組みとの連携により得られる来街者の行動特性をモデル化することにより、スマート・プランニングの機能拡張の可能性に関する知見が得られる。
- ・ **【効率性】** アプリによる収集データを随時蓄積し、スマート・プランニングと連動することにより、データの収集作業や分析・可視化作業が効率化され、行政の都市政策等のコストの削減効果が期待できる。また、施策効果が可視化可能となることにより、行政や地域の企業等を対象に、施策効果に応じた資金調達等、共感型まちづくりの可能性を検証し、スマートシティの持続化に関する知見が得られる。
- ・ **【先進性】** **【効率性】** 地域関係者の参画を促す施策を実施することにより、スマートシティの推進における地域との関係のあり方に関する知見が得られるとともに、まち全体におけるコンテンツの活性化と経済活性化の双方に効果のある持続可能なまちづくりモデルの可能性を検証できる。
- ・ **【継続性】** 対象区域のエリアマネジメント(都市再生推進法人)と連携した、地域が主体のプロジェクトであり、継続的な取組みの実施が可能である。
- ・ **【継続性】** ツール(統合アプリ及びスマート・プランニング)の開発と併せて、当該ツールを活用したビジネスモデルの可能性も検証することにより、自立的且つ持続可能な運営モデルの構築を目指す取組みである。
- ・ **【汎用性】** 本取組みで目標とするまちなかの活性化は、多くの地方都市が課題としており、本取組みで得られた知見や、他都市の類似の取組みで得られた知見どうしが共有可能である。

7) スマートシティ実装に向けたロードマップ

- ・本事業では、新潟市の総合計画等の更新時期となる2022年度までの期間を当面の計画期間に設定し、当該期間において各取組みの実証実験等を通じ、本計画の基盤となるスマート・プランニングをエンジンとした地域ストック活性化ツールの地域への定着を目指す。
- ・また、地域ストック活性化ツールと連動した新たなまちづくりの仕組みづくりについても並行して実証実験等を実施し、同様に2022年度までの実装を目指す。
- ・さらに中長期的には、蓄積されたデータや実績等を活用し、市の新たな政策やビジョンに合わせて更なる取組みの発展を図りながら、中・長距離バスターミナル整備等のハード面での契機も活かした継続的な販促創出を目指す。

項目	実施済み	2020年度	2021	2022	2023
地域ストック活性化ツールの実装ロードマップ					
	協議会設立 シミュレーション試行	再開発事業完成	新潟駅リニューアル	総合計画等更新 ツール定着	中・長距離バスターミナル整備 自立的な運用で更なる活性化
ツール開発スケジュール ※ はR2実証調査等で実施 ※ はR3実証調査等で実施提案					
統合型アプリ	既存アプリ	アプリ整備 機能追加	アプリ利用促進 の重点的検討	他施策との連携で 機能拡充	順次 本格稼働
スマブラ	一部エリア での試行	エリア拡張 機能の拡張	他施策との連携で機能拡充		順次 本格稼働
基盤整備	現況人流 データ蓄積	実行計画	実証実験 (データ基盤整備)	外部データ連携	順次 本格稼働
施策導入スケジュール ※ はR2実証調査等で実施 ※ はR3実証調査等で実施提案					
情報提供		実行計画	実証実験 (既存ガイド連携)	本格稼働 ※内容は随時拡充	
インセンティブ	既存のインセンティブ	ビジネスモデルの検証	実証実験 (MICE連携)	順次本格稼働	
集客コンテンツ		実証実験 (水辺空間活用)	実施計画 (スマートプラザ)	実証実験 (スマートプラザ)	本格稼働
レンタサイクル	既存のレンタサイクル	導入効果の検証	実証実験 (運用最適化)	順次本格稼働	
公共空間等の活用		実行計画	実証実験 (屋外空間活用) 実施検討 (空き家等の活用)	実証実験 (空き家等の活用)	順次 本格稼働
ヘルスケア	SWC事業の取組み	実行計画	(実証実験) 回遊×健康PF	外部データ連携	順次 本格稼働
MaaS					
モビリティ	実証実験 (別途取組)	実行計画	実証実験	モビリティ相互連携、 アプリ統合	本格稼働

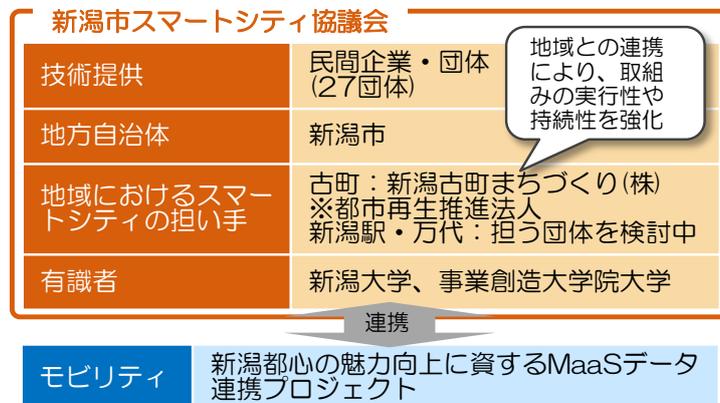
▲実行計画のロードマップ及びスケジュール

8) 構成員の役割分担

①.推進体制

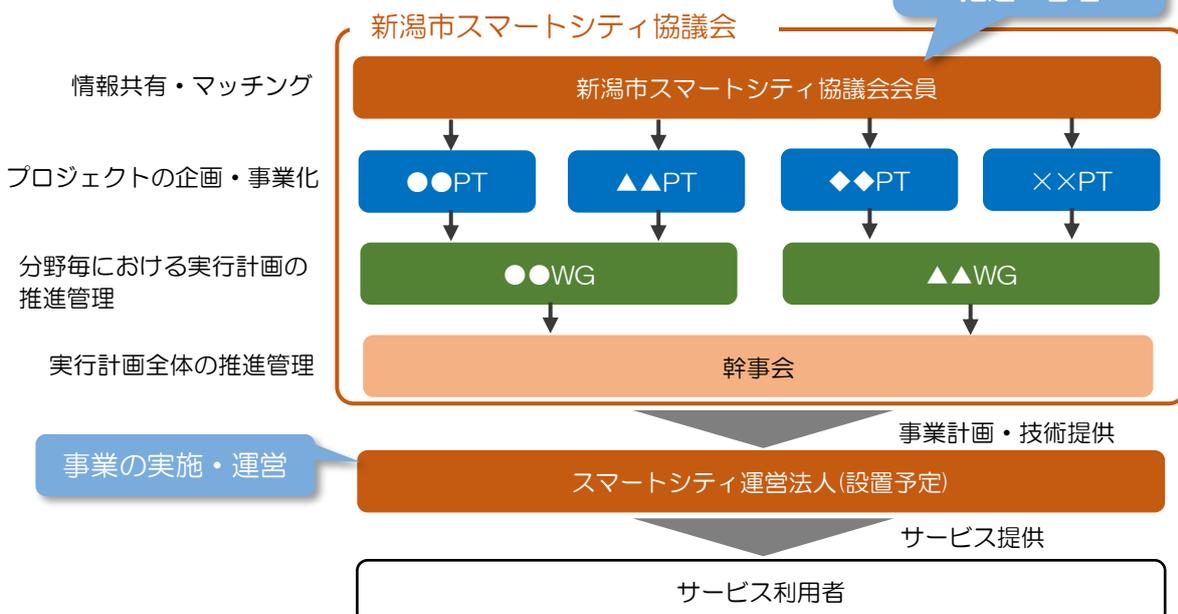
- ・ 産官学の様々な団体により構成される新潟市スマートシティ協議会(R1.1.30設置)が実行計画全体の推進・管理を行う。
- ・ スマートシティの実現に必要な個々のプロジェクトについては、関係する協議会構成員の発意によりプロジェクトチームを設置し、事業化に向けた検討を進めていく。また、個々のプロジェクトについてはワーキンググループや幹事会の設置により、実行計画との整合や進捗状況等を俯瞰的に管理する。
- ・ 実行計画に沿って事業化されたプロジェクトやサービスを提供する主体として、スマートシティ運営法人を設置する。

協議会員の構成



▲協議会の全体像

スマートシティの推進体制



※「PT」：プロジェクトチーム、「WG」：ワーキンググループ

▲実行計画の運営体制

②.スマートシティの推進に求められる役割・機能

- ・ 本実行計画では、地域が主体となってまちの賑わい創出を図ることを目的としていることから、単に技術の導入のみではなく、当該技術を活かすための仕掛けやソフト施策等も並行して実施することにより、効果が発揮されるものとする。
- ・ 以下に、本実行計画の目的を達成させる上で軸となる役割や機能を整理する。今後、必要に応じてこれらの役割や機能を効果的に発揮することが可能な推進体制を検討していく。

啓蒙・価値創造	
◆想定プレイヤー <ul style="list-style-type: none"> ・ 市 ・ メディア関係者 ・ 商業関係者 等 	◆役割：アプリ利用促進に関する活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリ利用促進のためのインセンティブの提供 ⇒ポイント付与、割引、無償提供など ・ アプリダウンロード促進のためのプロモーション ⇒紙、電波、ネットなど様々な媒体への広告展開
高度 ICT・技術支援	
◆想定プレイヤー <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリ開発者 ・ データ提供者 ⇒市、公共交通機関、携帯キャリア、店舗 等 ・ 連携基盤構築・運用者 ⇒ICT・クラウドベンダー等 ・ データ分析者 ⇒コンサル、大学等 	◆役割：データ収集・利活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリからの情報収集 ・ 各主体が保有するデータの収集 ・ 収集データの蓄積・分析 ・ データ連携 API の提供
サービス導入	
◆想定プレイヤー <ul style="list-style-type: none"> ・ エリアマネジメント ・ イベントー ・ 商業関係者 ・ 観光関係者 ・ 市 	◆役割：賑わい創出の仕掛け <ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの企画・運営 ・ 分析データの活用

▲ 実行計画推進の軸となる役割や機能

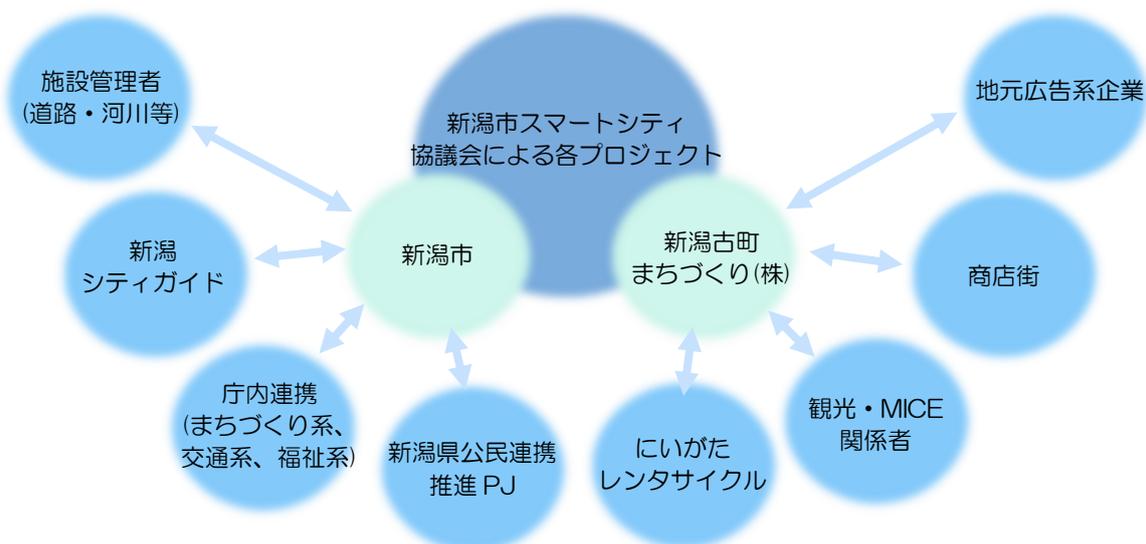
③.プロジェクト毎の推進体制

- ・ 本実行計画の実現に資する個別プロジェクトの現時点における推進体制は以下のとおりである。
- ・ 尚、個別の推進体制は各プロジェクトの進捗に応じ、随時更新するものとする。

▼プロジェクト毎の推進体制(計画策定時点) ※実施主体は順不同

プロジェクト	実施主体
統合アプリ開発	(株)NTTドコモ新潟支店、新潟市、新潟古町まちづくり(株)、 (株)福山コンサルタント東京支社
スマート・プランニングの実装	新潟古町まちづくり(株)、(株)福山コンサルタント東京支社
都市情報基盤(動的プラットフォーム)の構築	(株)BSNアイネット、(株)福山コンサルタント東京支社
スマートなインセンティブ付与 (※統合アプリ開発と並行して取組み)	(株)NTTドコモ新潟支店、新潟市、新潟古町まちづくり(株)、 (株)福山コンサルタント東京支社
あらゆる空間を活用した集客系コンテンツの創出	(株)JR東日本企画、(株)NTTドコモ新潟支店
来街者への情報発信・レコメンド	新潟市、新潟古町まちづくり(株)、 (株)福山コンサルタント東京支社
レンタサイクルの高度化	(株)JR東日本企画、(株)NTTドコモ新潟支店 新潟古町まちづくり(株)
公共空間、空き地・空き家活用促進 プラットフォーム	エヌシーイー(株)、(株)ナカノアイシステム、 (株)福山コンサルタント東京支社
ヘルスケア・ビューティーケアプラットフォーム	新潟市、(株)福山コンサルタント東京支社
新潟市版MaaS及び新たなモビリティの導入	未定(今後推進体制を検討予定)

- ・ また、本実行計画において、スマートシティの地域への実装を重要なポイントとして挙げていることから、各取組みの実施においては協議会構成員の枠に捉われず、地域の企業や既存の地域コミュニティ等との積極的なネットワーク構築により、地域へのスマートシティの浸透を図る。

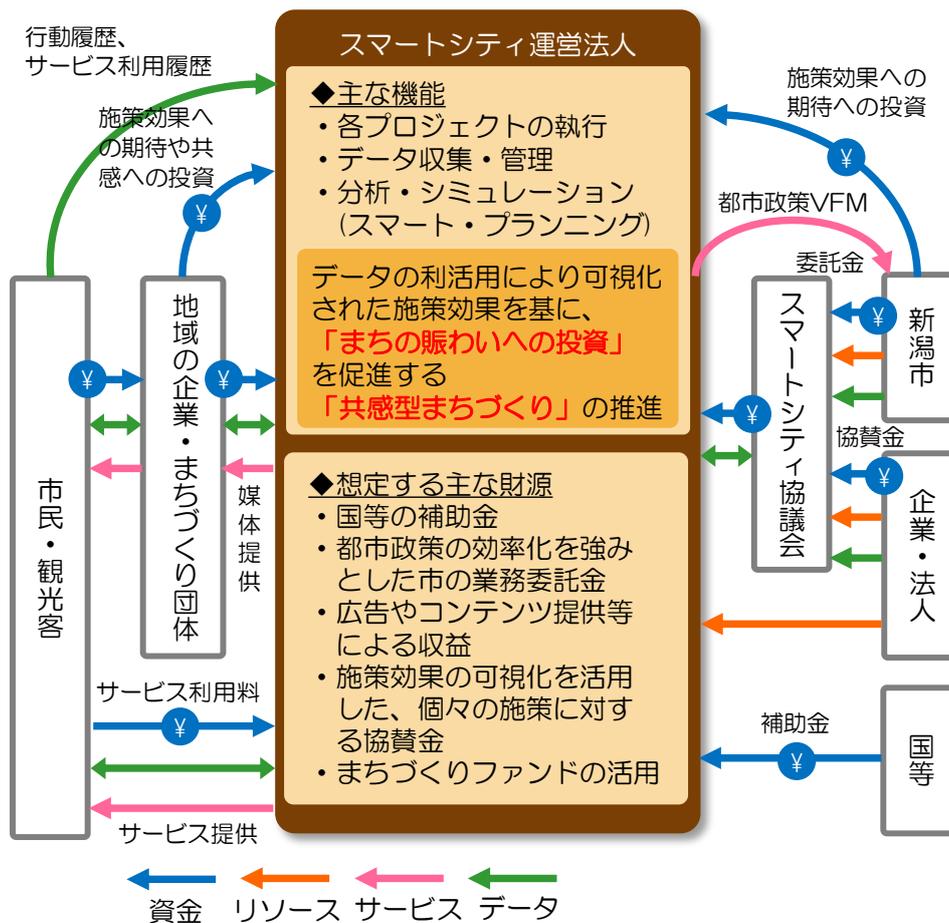


▲現時点の実行計画において連携を想定する地域コミュニティ

9) 持続可能な取組とするための方針

①.総論

- ・ 資金調達も含め、スマートシティに係る各施策の実施・運営機関となるスマートシティ運営法人を設置し、行政負担のみではなく、地域が主体の自立型の運営モデルを構築する。
- ・ 各施策の実施等により収集したデータの分析・加工による付加価値創出や、スマート・プランニングを通じた出資促進等、データ利活用による持続可能な取組を目指す。



▲自立型運営モデルのイメージ

②.個別の取組み毎の資金回収計画

- ・ 個別の取組みで想定している資金回収計画を以下に示す。
- ・ 最終的な資金回収方法等については、以下の方針を基に各取組みにおいて実証実験と併せてビジネスモデルの検証を行い、決定するものとする。

▼プロジェクト毎の資金回収の基本的考え方(計画策定時点(案))

プロジェクト	資金回収の基本的考え方
統合アプリ開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合アプリを軸に各施策の展開を図り、プラットフォーム利用料等の徴収の可能性を検討する。 ・ 既存の観光関連や行政関連の広告を効率化するための媒体として、利活用を促進する。
スマート・プランニングの実装	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策効果の可視化を通じた地域関係者等からの投資を促し、当該投資の一部を利用料として徴収する等のビジネスモデルを検討する。 ・ 行政のまちづくり政策を効率化するツールとして、行政等による利活用を促進する。
都市情報基盤(動的プラットフォーム)の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各取組みに得られたデータや外部データを組み合わせ、地域にニーズのある情報を提供することによる料金徴収の可能性を検討する。
スマートなインセンティブ付与 (※統合アプリ開発と並行して取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマート・プランニングを活用してインセンティブの効果を事前に可視化し、最適化することで、コスト以上の価値を得られる仕組みを構築する。
あらゆる空間を活用した集客系コンテンツの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者からの課金の仕組みを検討する。
来街者への情報発信・レコメンド	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者からの課金。(既存のコンテンツと同様)。
レンタサイクルの高度化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存のビジネスモデルの継続を基本とする。 ・ 本実行計画の取組みを通じて運用の最適化を行い、持続可能な運営モデルについて検討を行う。
公共空間、空き地・空き家活用促進 プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空間活用者からのプラットフォーム利用料等の徴収の可能性を検証する。 ・ 来街者(コンテンツ利用者)からのコンテンツに対する協賛金(クラウドファンディング等)の可能性を検証する。
ヘルスケア・ビューティーケアプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康コンテンツの認定料やプラットフォーム利用料等、地域の賑わいに対する対価として地域から収入を得るビジネスモデルの可能性を検証する。 ・ 市民の健康増進による福祉コストの軽減効果等を分析し、行政からの資金調達や事業連携の可能性を検証する。
新潟市版MaaS及び新たなモビリティの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 未定(今後検討)

10) データ利活用の方針

①.取組にあたり活用を予定しているデータ

- ・ 本実行計画策定時において活用を予定しているデータの活用方針は以下の通りである。

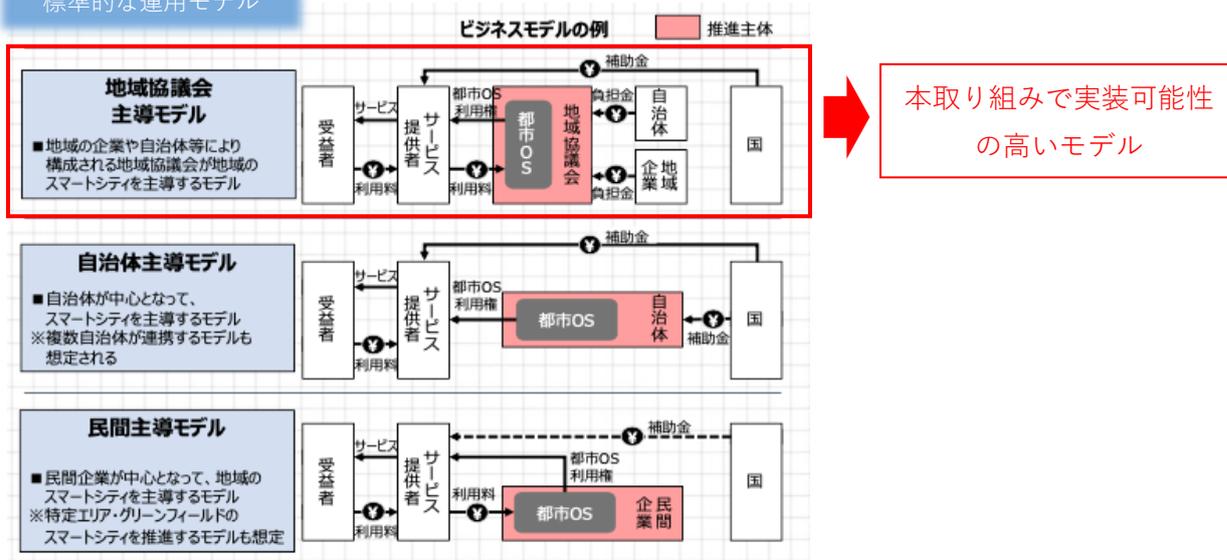
▼ データ利活用方針の一覧(計画策定時点の想定)

データ種別	取得方法	データの保有者	データ利活用の方針	データ PF との連携
アプリ利用者の属性	アプリ利用者の登録データから取得	スマートシティ運営法人	・ まちの賑わい施策効果に係る各種分析(スマート・プランニング等)に活用する。	・ 取得したデータを集計・加工または公開可能なダッシュボードを構築し、様々な主体が活用可能なようにオープン化するとともに、当該加工データ等を活用した新たな資金調達手法への展開を図る。
アプリ内のコンテンツ利用履歴	アプリの利用ログデータから取得	スマートシティ運営法人		
アプリ利用者の位置情報	アプリ利用者のスマートフォンの GPS 位置情報データから取得	スマートシティ運営法人		
センサー等による人流データ	屋外に設置されたカメラやビーコン等のセンサーにより人流データを取得	スマートシティ運営法人		
購買データ	未定(POS データやアプリでのインセンティブ利用履歴等を想定)	スマートシティ運営法人		
区域内の建物情報データ	市の保有する建物現況データを活用	市		

②.データプラットフォームの整備および活用方針

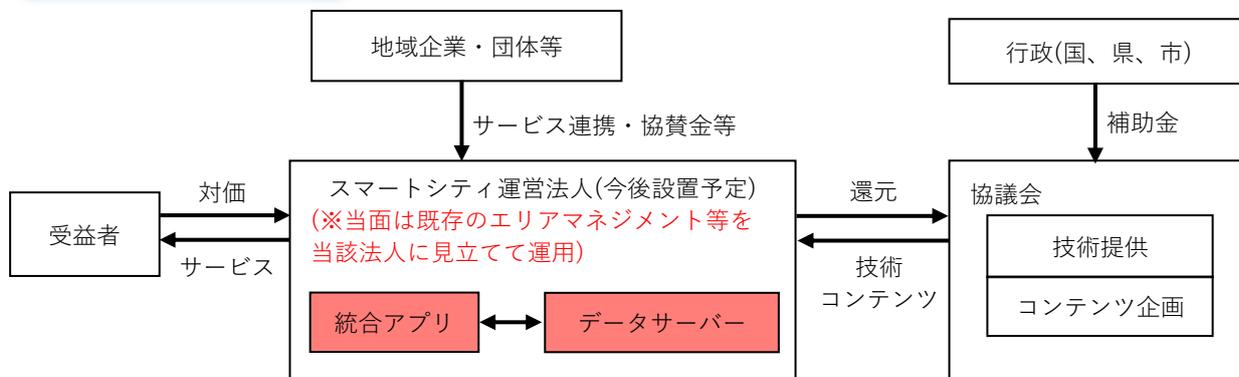
- ・本取組みは、将来的には市全域且つ分野横断的なスマートシティのプラットフォームに発展する可能性が考えられるが、当面は中心市街地を対象区域とし、まちの活性化にテーマを絞って取り組んでいるところである。
- ・スマートシティにおけるデータプラットフォームとして、都市OSの実装を視野に入れるべきと考えられるが、現状では分野やエリアを絞って取り組んでいることから、取組み内においてそれ程都市OSの必要性には迫られていない状況である。
- ・一方で本取組みが今後軌道に乗り、稼働するプロジェクトの数が多岐にわたることを想定すると、プロジェクト間でのデータ連携の仕組みについても検討する必要があることから、本取組みでは、当初から都市OSの構造ありきではなく、今後、プロジェクトの実績を積み重ねると並行し、その都度最適となるデータ連携やデータサービス提供の基盤を構築していき、新潟市スマートシティにおける都市OSのあり方を作り上げていく方針とする。また、この際に、都市OSが他都市との連携を見据えたものだというを念頭に置き、システムが独自化しないように留意する必要がある。

標準的な運用モデル



出典：スマートシティリファレンスアーキテクチャのつかい方 導入ガイドブック

現状及び当面の運用体制



▲データプラットフォームの整備を見据えた運用モデル

1 1) 横展開に向けた方針

- ・本取組みでは、まちなかの活性化をテーマに、統合アプリとスマート・プランニングを活用した地域ストック活性化ツールの、地域活性化に対する有効性の他、持続可能なスマートシティを実現するためのビジネスモデルや運営モデルを構築するための知見が得られる。
- ・これらの成果や知見については、類似の取組みを行っている他のコンソーシアムや自治体等との積極的な共有を図り、全国的なスマートシティ推進の加速に寄与する。

▼横展開に向けた方針

取組み	類似の取組み例	横展開の考え方
スマート・プランニング	松山市、札幌市	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの計測に必要なデータや分析手法等を体系化し、他都市との情報共有を図る。 ※分析のツール化や標準化は今後の検討課題
回遊シミュレーション	さいたま市	<ul style="list-style-type: none"> ・回遊モデルに用いた説明変数や感度(パラメータ)について、他都市との情報共有を図る。 ・既存の手引き※に沿った手法を用いており、本取組みで得られた新たな回遊特性は他都市でも活用が可能である。 ※「スマート・プランニング実践の手引き【第二版】」(国土交通省都市局) ※分析のツール化や標準化は今後の検討課題
アプリによる行動変容促進	横須賀市	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の効果を対象者の特性や、施策の類型別等に体系化し、他都市との情報共有を図る。